

ハクゾウメディカル 株式会社

衛生材料から

感染対策製品の展開へと転換

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリー技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



医療現場のニーズから綿棒と薬剤をセットにした「プッシュ綿棒」

業務内容

三獣渡河の精神で創業 感染予防製品でトップクラス

昭和28年に大阪で創業。商標の「ハクゾウ（白象）」は、中国故事「三獣渡河」に由来し、象の「物に動せず、静を旨とし目標にまい進する」姿勢を込めている。

当初はガーゼ、脱脂綿、包帯を中心に製造・販売してきたが、1990年代から院内感染が社会問題になり、衛生材料に外用消毒剤を組み合わせた感染予防製品に参入した。品質だけでなく細かいサービス対応も評価を受け、医療現場や介護施設で採用されている。今では感染予防製品が同社の主力製品となり、この分野において業界のトップクラスである。

強み

現場ニーズから誕生

同社は昭和32年頃から病院など医療機関への直販体制を導入、ときには開発担当者も営業担当者も同行し、医療現場や介護現場で働く人のニーズを汲み上げ、具体的な製品やサービスの開発に生かしてきた。例えばICN（感染管理認定看護師）からのアドバイスをもとに、包装容器内で薬液を綿棒など衛生材料に含浸できる製品「プッシュ綿棒」などの開発につながってきた。使い捨て型で作業負担が軽減でき、消毒剤や綿棒が外気に触れることもないため、衛生面での不安解消につながった。中村保仁社長は「現場の声を丁寧に吸い上げ、感染対策製品へと舵を切っている」と話す。当製品は在宅医療なども視野に増産計画をしている。

人材育成

人間力の強化で 医療現場を支える

従来、人材育成は主にOJTで行ってきた

が、近年は外部人材を招いた研修の実施や資格取得を奨励している。生産部門の研修にも力を入れ、平成29年度は福島工場（福島県相馬市）でリーダークラスを集めて研修を実施した。

創業以来、医療現場での問題・課題などのニーズに耳を傾け、社員が持つ「人間力」を駆使し、新たな製品やサービスを生み出してきた。人間力は、製品を販売していくうえでなくてはならないものになっている。中村社長は、「社内が一体となって人材育成に取り組み、人間力の強化につなげていきたい」と強調する。

今後の展望

CEマークを取得し、 海外市场を開拓

平成29年4月にタイ（バンコク）に駐在員事務所を設置し、東南アジアを中心に営業活動をしている。同5月にはEU（欧州連合）内で製品を流通できるCEマークを取得、海外の販売に弾みがつくことを期待する。

また、熊本工場（熊本県菊池市）に約10億円を投じて新製造棟を建設した。手がける製品の品質管理・安全性を強化するため、極力動線を短くし、製造工程を1つの棟に集約する。新製造棟の稼働で生産能力を高め、今後は機械化も進め、コスト削減を図る。中村社長は「新製造棟から海外にも製品を出せれば」と海外市場開拓も狙う。



医薬品のGMP基準に沿って生産



熊本工場の新製剤棟

当社の歴史



昭和28年に創業以来、「医療・介護を受けるすべての人々にとってなくてはならないパートナーでありたい」という企業理念のもとユーザーの声を汲み上げ、カタチにしてきました。今後も、医療施設や介護現場の「あったらいいのに」を追求し、社会や地域に貢献できる会社作りを目指します。

代表取締役社長 中村 保仁さん

<http://www.hakuzo.co.jp/>



主な事業内容

医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器の製造、開発、販売

主な取引先(納入先)

医療機関、介護施設

- 住 所 〒540-0025 大阪市中央区 徳井町2-4-9
- T E L 06-6942-0451
- F A X 06-6945-0539
- 創 業 昭和28年8月
- 設 立 昭和29年1月
- 資本金 5,000万円
- 従業員 266名